

第2回市民文化ホール企画・運営委員会議事概要

日 時	平成 24 年 11 月 8 日(木) 19 時 00 分～21 時 00 分
場 所	市民会館 三島会館 第 2・3 会議室
出席者	委 員 徳永幸夫、井上仁、坂上京子、土谷浩也、三谷一恵、篠原繁雄 矢野正樹、星川将一、山本淑子 事務局 利藤企画財務部長、河村市民文化ホール等整備課長、田辺課長補佐、 今村課長補佐、中山係長、加地係長、福田係長、佐藤 加地市民交流課長、宝利文化図書課長 支援コンサルタント 空間創造研究所 米森
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	

(協議概要)

項 目	協議概要
<p>■会議の成立</p> <p>■会議の公開非公開について</p> <p>■第 1 回議事概要について</p> <p>■協議内容について</p> <p>■前回欠席委員の自己紹介</p> <p>■可児市視察研修について (報告)</p>	<p>○委員長:委員 12 名中 9 名出席。過半数の出席を確認したので委員会は成立。</p> <p>○委員長:本日の議題は、非公開とする議題ではないので公開。</p> <p>○事務局:第 1 回議事概要について説明。</p> <p>○委員長:本日の協議内容について説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可児市視察研修について報告 ・市民文化ホール基本設計(案)について ・市民文化ホール企画運営基本計画(案)について ・運営組織形態について ・その他 <p>【可児市視察研修の報告】</p> <p>○委員:</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 地域に生きる劇場の名のとおり、10 年たっても可児市民が誇れる文化施設を実現している。 □ 衛館長の思いである、「市民が利用しやすい、心やすらぐ場を提供できる」という雰囲気伝わってきたことは、夜 7 時ぐらいになっても外で家族連れが公園の様に遊んでいたりと、高校生が弁当を食べていたりしていたことである。

- ホールの方向性をはっきりさせること。四国中央市は何を行いたいのか、どんなホールを作りたいのかをはっきりとさせないといけないと言っていたことが印象に残った。
- 今必要なのが芸術監督ではなく経営監督であると言っていたことが印象に残った。

○委員:

- 平日夕方ににぎわいが、地域に根ざしていると感じた。
- 最も心に響いたことは、社会認知、社会貢献というところでアウトリーチ活動をこれまで年間 354 件、今後は 450 件を目標にしているという自信あふれた館長の話。独居老人への「おげんきですかチケット」等の社会貢献事業の事例を学ぶことができた。
- 少子化の懸念があるからこそ子どものころからいろいろな体験の場が必要であると感じている。
- 四国中央市に見合った市民の声を集めて、希望を共につくれる新しい館長の存在の重要性をあらためて感じた。

○委員長: 視察感想資料に添って報告

- 本格的なコンベンションを四国中央市で行うことは不可能だと言っていた。コンベンションを誘致するだけの人脈、人材が四国中央市にあるのか。また、コンベンションを誘致したときに、2 千人、3 千人を招き入れるようなホテル・飲食店が周辺にないことから不可能であると言っていた。

○委員: 「コンベンションができません」ではなく、コンベンションのためにこのまちのことを考えていくのが運営であって、基本構想でも謳っているので目指していかなければならない。ホテルや飲食店がなかったら作ればいい。その辺はまちづくりをしていく必要がある。今そこを諦めるのは早い。

○委員長: 補足するが、東京や神戸などで行っている本格的なコンベンションを四国中央市で行うことは無理であると言っていた。それに変わるような形で人集め、催しを仕掛けていくことは反対はしていないと言っていた。

○委員: 新日本フィル等が福祉施設等に出向いて活動を行っているが、その場合は、劇場に招いてそこで公演を行いその後出向いていくなどの形をとっているのか。

○委員長: 公演に合わせて行っている。

○委員: ala クルーズと財団との役割分担は。

○事務局: 館の事業の一部を市民活動の一部として ala クルーズに任せている。館の方針決定や運営には関わっていない。もぎり等の市民ボランティアについては、館のほうで運営している。

○委員: 企画には市民参加は必要ないという話だが、四国中央市はこの点をどのように実現するのか、可児とは違う市民のレベルがあるので今後考え

<p>■市民文化ホール基本設計(案)について(説明、協議)</p> <p>■市民文化ホール企画運営基本計画(素案)について(説明)</p> <p>■運営組織形態について(報告)</p>	<p>ていかなければいけないところだと思う。</p> <p>○空間創造研究所:衛館長が言っているのは、事業の実施は税金を投入して実現できることであり、事業を運用していくことは税金の運用である。税金の運用を市民に任せていいのかというのは、市民にそこまでの責任を押し付けていいのかというところがある。館の大きな年間の事業の組立は自分たちが責任を持って行っていく。市民が自ら事業を行っていくというものについてはalaクルーズが実施していく。そのalaクルーズに対して財団が助成している。委員が言っているようにこの様なつながり方をもう少し発展させていくと、委員がイメージしているように、市民企画と館の運営への新たな関わり方が見えてくるのではと思う。</p> <p>○事務局:1/100の図面を見ながら事務局より説明。</p> <p>○空間創造研究所:企画・運営委員会での検討項目(案)について図面を使用して説明。</p> <p>○事務局:企画運営基本計画(素案)について説明。</p> <p>運営組織形態について、開館当初は市の直営とし、状況により指定管理者制度へ移行を説明</p> <p>○委員長:素案の中、赤字の意味は。事務局以外に参加している2つの課のほうから説明したいことはあるのか。</p> <p>○事務局:赤字は、庁内検討会だけで考えるのではなく、企画・運営委員会でも協議していただきたいところである。</p> <p>○文化図書課長:庁内検討会の一員と言うことで素案の作成に関わっている。</p> <p>○市民交流課長:市民交流課は、川之江会館、三島会館を所轄している課であり、自主事業は行っていない。庁内検討会では、開館当初から指定管理者制度にするべきと最後までただ1人主張していたが、結局は直営方式となった。個人的な意見として、文化ホールについては経営者としての高いセンスを要求される部分があろうかと思う。四国中央市にたくさんいる経営者の方で優れた方を会館当初から指定管理者とするという考え方も考慮いただけたらと思う。</p> <p>○委員:開館当初の市の直営に関しては異論はない。ただ、資料2のAに専門性が必要な職能(事業企画・プロデュース・ホール運営等)については委託する方法が考えられるとあるが、ここを委託すると指定管理者制度と変わらない。ここが、大事なところで、企画・運営委員会で協議していかなければいけない。いろんな企画をしたり、なにか面白いことをしようという意思が感じられない。この点については、次回以降協議を深めていく一番のところ</p>
--	--

<p>■その他</p>	<p>である。ありきたりのことをしようとしているだけで、これを行うと市民の意見を反映させるところがなくなる。企画に市民が参画していく組織体系を作らなければいけない。「事業として何を行うのか決まらなと運営組織が決まらなないので」と言う意見があるが、逆だと思ふ。運営組織が決まらなと事業は決まらな。運営組織をしっかりと決めていくということを今後企画・運営委員会で行ってほしい。組織形態が決まらなと事務室の大きさも決まらな。運営組織の議論から入っていかなければならない。次回はそういう形でお願ひしたい。</p> <p>○委員長:核心をついた部分であるので次回以降でじっくりと協議していきたい。「文化ホールで何がやりたいか」を各委員は考えてほしい。</p> <p>○委員:事務局として指定管理者は民間をイメージしているのか。私のイメージはいろいろな団体がまとまったものが一つのNPOなり財団を組織しているのが指定管理者のイメージである。事務局はどう考えているのか。</p> <p>○事務局:まだ白紙である。</p> <p>○委員:素案のイメージ図はまんやかに市があつて周りに三角形で、地域、市民参画組織、多分野が配置されているが、私のイメージは、三角形を包むように大きく市が有るイメージである。いろいろな団体が組織の委員となり、市の職員もいてそれが一つの運営する団体というイメージとなる。これからそこは検討していくということであるのか。</p> <p>○委員長:庁内検討会で検討していく予定はあるのか。</p> <p>○事務局:今は基本計画の段階であるのでまだ未定である。</p> <p>○委員:ユーホールと文化ホールの関係、利用料金を含めてユーホールの立ち位置であつたり、市の考えを聞く機会があればと思ふ。他市で複数のホールを有するところがあると思ふが、うまくいっている事例やバランスが取れているような事例があればお聞きしたい。</p> <p>○空間創造研究所:今後資料を揃えて説明したい。</p> <p>○委員:開館当初は市の直営という方針は現実的だと思ふ。庁内検討会と企画・運営委員会が同じテーブルで話し合わなと、お互いが意図していることがうまく伝わらなという気がする。合同の会があつてもいいのではないかと思ふ。</p> <p>○事務局:第2回四国まんなか市長サミットの案内。参加希望の方は来週火曜日までに事務局まで連絡いただきたい。</p>
-------------	--